

月刊
TEMMON
GUIDE

2013
DECEMBER

12

天文ガイド

肉眼大彗星登場へ向けて

いよいよ到来! アイソン彗星

20°の尾となるか? ラブジョイ彗星C/2013 R1

富士山麓の絶景ポイント アイソン観測地ガイド

藤井 旭が見に行く 風変わりな彗星たちの記憶

新製品インプレッション 超短焦点アストログラフ ビクセンVSD100F3.8

2014 ASTRO
CALENDAR

別冊付録

2014年 アstroカレンダー

天文ガイド



試用レポート フィールドモニター

エーディテクノ

- ▶ **CL5585H** (5型)
- ▶ **CL75HOX** (7型ワイド)
- ▶ **CL85HO** (8型ウルトラワイド)



文：沼澤茂美

CL5585H(5型)はキャノンLP-E6バッテリーとソニーNP-Fシリーズのバッテリーを使用できる「バッテリーバックプレート」が2個付属している。また、オプションでキャノンBP-954、ニコン製EN-EL15、パナソニックCGA-D54s用プレートが用意されている。CL75HOX(7型)とCL85HO(8型)は、キャノンLP-E6用プレート1枚が付属しており、あとはオプションとなる。なお、バッテリーバックプレートは3機種とも互換性がある。いずれのモニターもACアダプターが同梱されている。

デジタルカメラにライブビュー機能が付いてから、天体撮影のピント合わせはだいぶ楽になった。しかし、小さな背面モニターを使って正確に合わせるのは、モニターをルーペで拡大して見るなどの工夫が必要だ。また、モニターの角度を変えることができるバリエーションモニター付きのカメラを除けば、多くのカメラは、空の高いところに向けたときにモニターを確認することが困難な場合がある。一方で、最近の一眼レフデジタルカメラは、高感度特性が向上して、F1.4以下のレンズを使用した場合、ライブビューで星座の骨格がわかるほどになった。つまり、構図やフレーミングが、

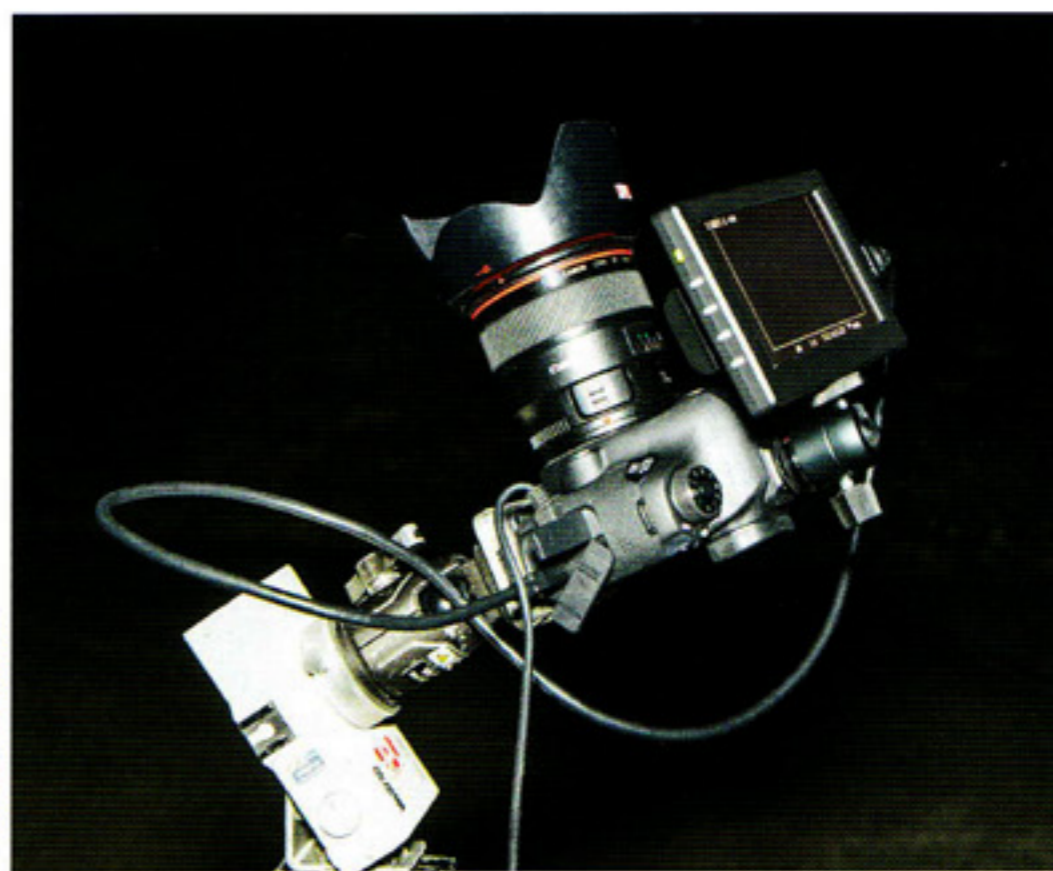
モニター画面を見ながら行なえるのだ。そして多くの人が、「外部モニターが使えたら楽に作業ができるのではないか」と考えていると思う。

今回、エーディテクノから発売されている3種類のフィールドモニターを試用することができた。フィールドでの星野撮影に使用すると、やはりモニターの角



シューマウントアダプター(付属)
カメラのアクセサリースューなどに取り付けてモニターを自由な角度に固定できる。金属製のしっかりしたものだ。

フィールドでの星野撮影でもっとも重宝するのが、カメラを高い位置に向けたときに楽な姿勢でモニターが確認できることだろう。バリエーションモニター仕様のカメラと比較してもとても見やすい。





各モニターの外観

左からCL85HO (8型), CL75HOX (7型) CL5585H (5型)だ。8型と5型はモニター表面がアンチグレア処理された液晶パネルで、7型はIPSパネルの光沢仕様になっていて、視野角は上下左右共に180°に近い。HDMI端子は、5型が入力のみで、7型と8型は入出力各1個と、音声モニター用の3.5φのミニピンジャック用出力端子が付いている。

度を自由に変えることができることは、天頂付近の星を使ったピント合わせや、構図などの決定にたいへん便利だということを感じた。ただし、モニターが大きくなれば、モニターを見るだけでピント合わせができるわけではない。やはり、モニターをルーペで確認するという作業は必要だ。それは老眼が原因でモニターに目を近づけて見ることができないということも原因かもしれない。モニターに接近して見ることができればピントの山をつかむのは容易だろう。

星野のほかにも月面や惑星の撮影などにも使用してみたが、とくに月面をモニターしたときの「CL75HOX」のライブビュー映像はすばらしく、IPSパネルの優位性が発揮された形となった。

デフォルト時の表示サイズ

各モニターをEOS6Dに接続した時のデフォルト時の表示サイズを示す。7型と8型モニターには「DSLRスケール機能」が付いており、モニターフル画面で表示することが可能だ。ただし、8型の右に出ているステータス表示は消すことはできない。



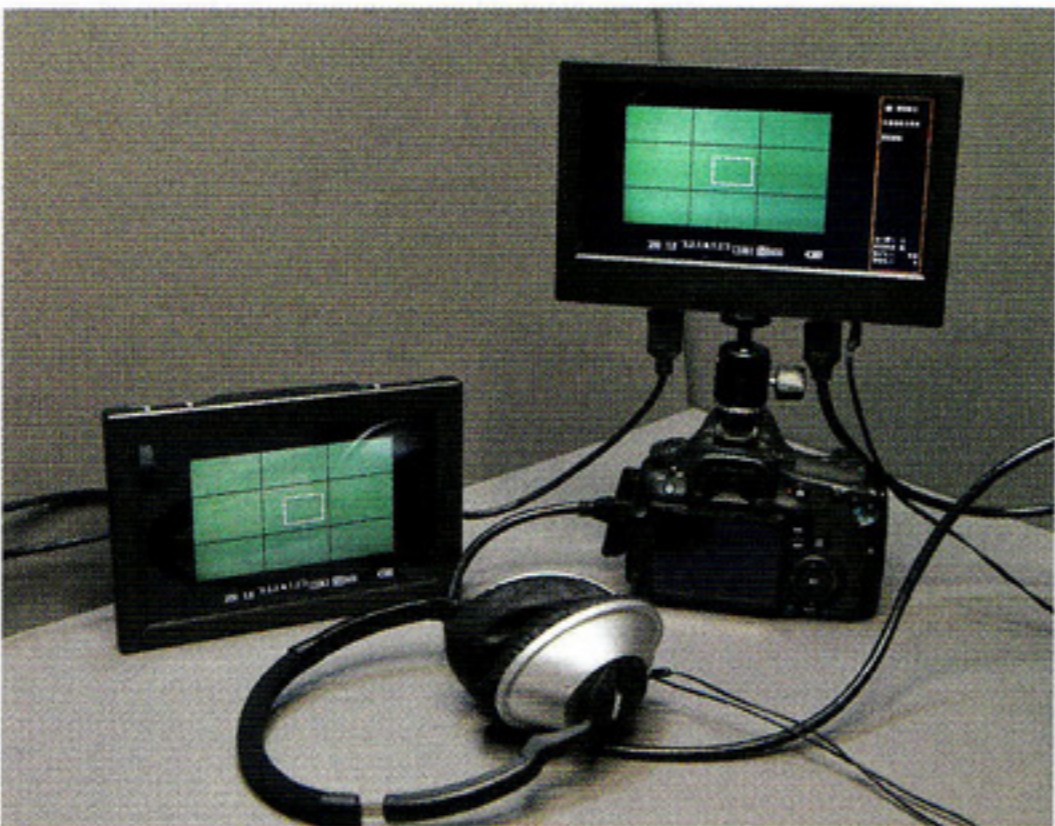
ピント合わせ

フィールドモニターを使うと表示面積が格段に広がるので、ピント合わせが楽になる。しかし、老眼が進行した同胞・諸兄の皆さんには恩恵が感じられないかもしれない。でも、やはりルーペは必需品だ。



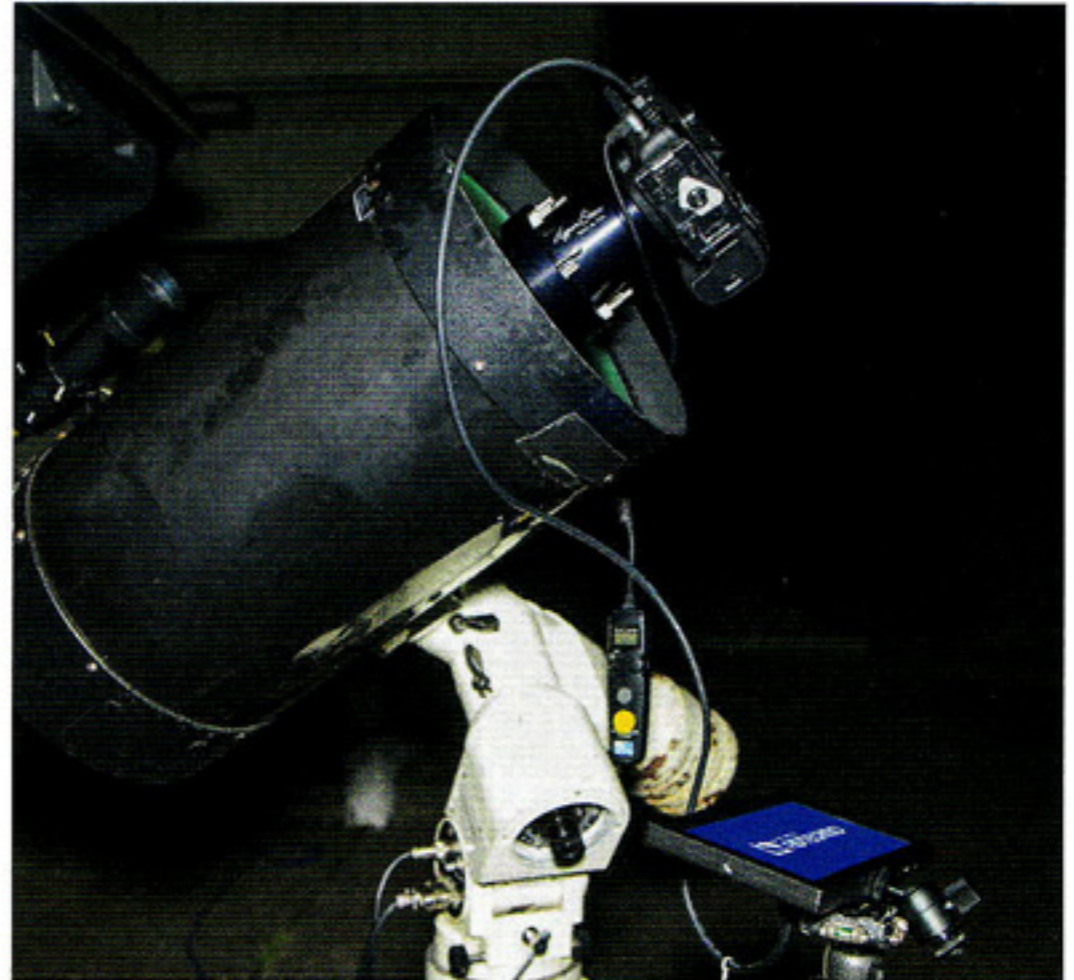
星野撮影の構図合わせ

EOS6Dに24mm F1.4レンズを付けたときの5型モニターのライブビュー映像だ。星座の形がよくわかり構図合わせが容易だ。このときのパネルの明るさは64だ。デフォルトは50でだいぶ暗いので、調整する必要がある。



複数モニターの接続

今回試用した7型と8型のモニターには入出力用のHDMI端子がそれぞれ1つずつ付いているため、複数のモニターに同時に表示することが可能だ。また、音声出力端子も付いているため、動画撮影後のモニターも可能だ(撮影中の音声モニターはできない)。

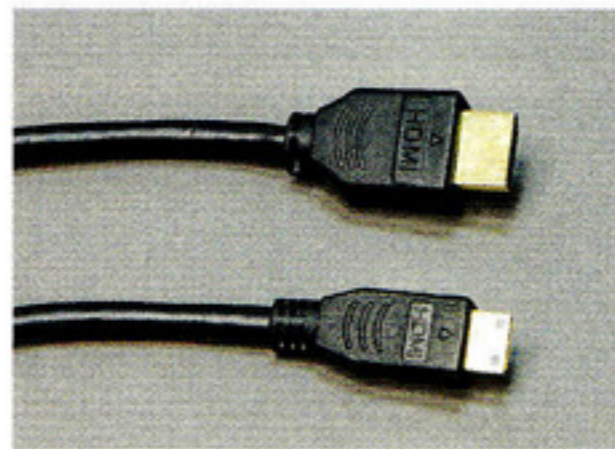
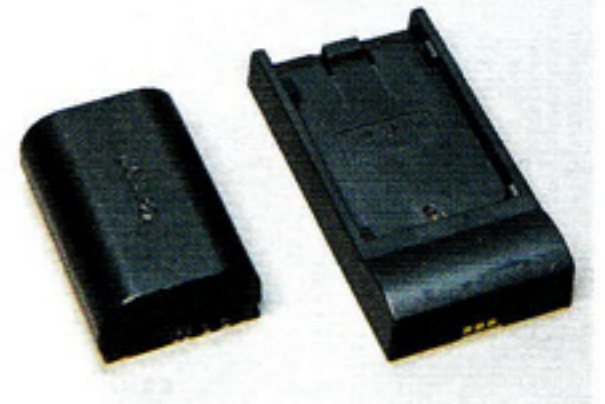


ブライムフォーカスのモニター

シュミット・カセ+HyperStar光学系のように、カメラを鏡筒前面に配置するような場合は、フィールドモニターを使用すれば、離れた場所から楽な姿勢でピント合わせや構図合わせが可能だ。

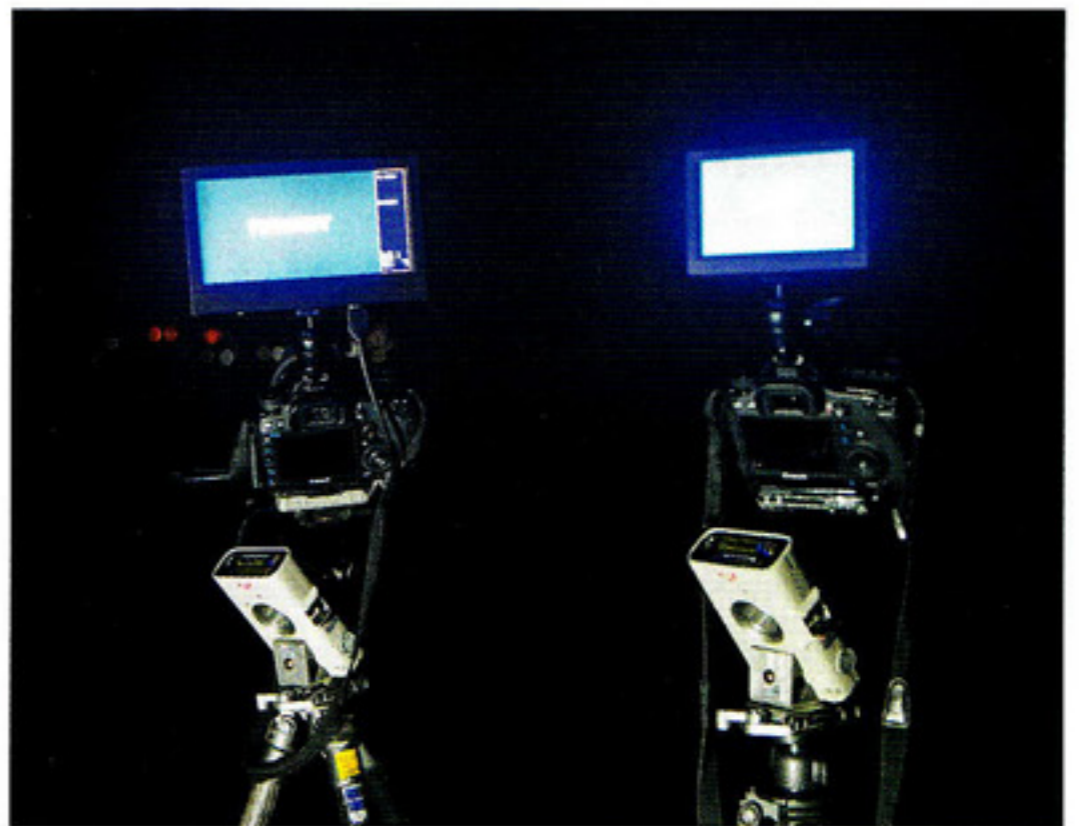
**バッテリーと
バッテリープレート**

キヤノンLP-E6バッテリー(左)と、付属のバッテリープレート(右)。5型にはソニーNP-Fタイプ用も付属している。



HDMIケーブル

ケーブルは付属していない。モニター本体は「標準タイプ(タイプA)」、カメラ側はほとんどが「ミニHDMI端子(タイプC)」なので仕様を間違えないように用意する。



信号ブランク時の問題

フィールドで使っていて問題として感じたのは、映像信号がモニターに送られていないときにブルースクリーンに切り替わることだ。これが暗夜のフィールドでは非常に明るく感じるので、とくに周囲にほかの撮影者がいる場合は何らかの対策が必要だろう。